

令和4年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(総合型選抜)

小 論 文

(地域学部 地域学科 人間形成コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は4ページ、解答用紙は3枚、下書用紙は3枚である。
指示があってから確認すること。
3. 解答は解答用紙（横書き）に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

問題 I 次の英文は西洋社会における子ども期 (childhood) の歴史を論じた文章である。文章を読んで問 1、問 2 に答えなさい。

この部分については、著作権の関係上、HPで公開して
おりません。

注

dependency : 依存状態, unprecedented : 先例のない, Middle Ages : 中世, leaving home : 生家を離れること, apprentices : 徒弟・見習い, Housing : 住宅供給, stuff : 題材・ネタ, sitcoms : 連続ホームコメディ, adult children : 成人した子ども, subsidize : 助成金を出す

出典

Cunningham, H. (2006) . *The Invention of Childhood*, pp. 220-221, BBC Books.

(原文の脚注は省略した。)

問 1 下線部①を和訳しなさい。

問 2 下線部②の具体的な内容を 1970 年代以降の変化を中心に日本語で 120 字以内で説明しなさい。

問題Ⅱ 以下は SDGs (Sustainable Development Goals) について書かれた文章である。文章を読んで、問 1、問 2 に答えなさい。

地球の資源を浪費し続けた結果として、立て続けに起きているのが自然環境の激変や異常事態の発生だ。一例を挙げると、2020 年夏の北半球の気温は観測史上もつとも高温となった。北極海の氷の量は年々急激に減少し、2035 年には氷がなくなる可能性があると報告された。世界中で野生の動植物が急激に減少しており、少なくとも約 100 万種の動植物が絶滅の危機にあるという。こうしたニュースが毎日のように伝えられている。そしてこれらはすべて、人間の活動が原因と考えられている。

さらに新型コロナのパンデミックである。新型コロナは SARS などと同じく、野生動物を起源とする新しい感染症だが、新しく生まれたウイルスではない。長いあいだ特定の野生動物だけに棲み着いていたものが、自然破壊や気候変動などにより、人間と接触する機会が増えて流行した。

さらに、グローバル化により世界中で人やモノが移動をくりかえすことで急速に拡散した。ウイルス専門家の多くは、たとえ今回のパンデミックが収まっても、いまの経済・社会体制が続くかぎり、新たなウイルスは次々とあらわれると警告している。こうした自然破壊と動物由来感染症との関係性は、国連環境計画 (UNEP) をはじめとする複数の国際機関も指摘し、あらゆる政策決定に「人、動物、環境」の健康を一体のものにとらえる「ワンヘルス (OneHealth)」という考え方を導入する必要性をかかげている。人類の活動は、明らかに地球の限界を超えてしまっている。

「これ以上先延ばしにできない」と声をあげているのは、地球だけではない。ツケを回される次世代からもあがっている。スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんが、本国政府の気候変動対策が不十分として、たった一人で始めた学校ストライキが、またたく間に世界中の若者たちのあいだに広まったのもそのあらわれだ。2019 年 9 月には、世界 150 カ国の 5000 カ所で行われたグローバル気候マーチに、400 万人を超える人々が集まった。若者たちは「地球にスペアはない!」「私たちの未来を燃やさないで!」とのプラカードをかかげ、危機感の薄い大人たちに警鐘を鳴らした。

世代間の不公平を象徴するかのようには、若い世代は SDGs への関心が高い傾向にある。環境意識が決して高くはない日本でも、SDGs 認知度アンケートで男女ともに 10 代、20 代の若年層がトップだった⁽¹⁾。若者たちは、ツケを回される自分たち自身の問題だととらえている。

世代間だけでなく、同じ世代内の格差も深刻になっている。極端な貧困状態 (絶対的貧困) とされる人々は、世界人口のおよそ 10%にあたる 7 億人以上にのぼる⁽²⁾。

また、世界人口の 55%が社会保障を利用できない状況にある（2018 年時点）。貧困状態では教育を受けにくくなり、医療や社会保障、インターネットなどの基本的なサービスにもアクセスしにくい。また、劣悪な環境でも働かざるをえないことが多く、暴力にもさらされやすい。そして、紛争や災害が起きたり、感染症が広がると真っ先に過酷な状況に追い込まれる。

そうした貧困と格差もまた、現代の社会・経済システムが生み出したものだ。各国内の貧富の格差は驚異的なペースで開き続けている。世界の富裕層 26 人の富の合計は、世界人口の約半数（38 億人）の富の合計と同じである（2019 年）。

現在の経済・社会システムの中でつくられた差別や不平等、貧困や飢餓などは「構造的暴力⁽³⁾」と呼ばれる。構造的暴力を解消するためには、食糧配給などの対症療法だけではまったく不十分で、社会構造を根本から変革する必要がある。世界の大胆な転換を求める SDGs がつくられた背景には、あまりにバランスが悪くなったこの世界のいびつな現実がある。

注

- (1) 男性トップは 10 代が 56%、女性トップは 20 代で 32%。電通「SDGs に関する生活アンケート調査（2020 年）」より。
- (2) 1 日 1.9 ドル未満の収入しかない人の数。2018 年に世界銀行などにより発表された、2015 年の数値。
- (3) 構造的暴力…ノルウェーの平和学者であるヨハン・ガルトゥング氏が提唱した考え方。平和は戦争などの直接的暴力がない状態だけを指すのではなく、貧困などの構造的な暴力のない状態（積極的平和）を意味するというもの。

出典

高橋真樹『日本の SDGs それってほんとにサステナブル?』大月書店、2021 年、17 頁—20 頁。

問 1 著者の主張の主旨を 300 字以内で述べなさい。

問 2 文章から考えられる SDGs におけるサステナブルの意味を 600 字以内で述べなさい。